

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1971600174
法人名	有限会社 長沼工業所
事業所名	グループホーム ふうりん
所在地	〒 400-0222 山梨県南アルプス市飯野2300-1 電話番号 055-280-8305

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価確定日	平成19年12月13日

【情報提供票より】平成19年10月17日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月2日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8人	常勤	7人 非常勤 1人 常勤換算 3.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	0 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	■有(96,000) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有() 有りの場合 □有 ■無 償却の有無 □無			
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 0 円			

(4) 利用者の概要 平成19年10月15日 現在

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	70 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高畑内科小児科医院、岡部歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年10月30日

住宅地の中にあるこのグループホームは、眼前に果樹園が広がり、様々な四季を存分に感じることができる。建物の前にある広い庭には菜園や鶏小屋があり、利用者が自由に行き来し、楽しみごとや気晴らしができるようになっている。職員は、事業主がこの施設を開所する際に抱いた思い・理念を十分に理解し、利用者本位の生活を支援することを第一に利用者とかかわっている。立地的にも便利なところにあり、買い物や外出もしやすい。地域とのかかわりも積極的にもたれており、「地域の中でその人らしい生活をする」支援がなされている事業所であると感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 利用者に名札をつけていたが外してはどうかという課題が示された。その課題について、職員間や運営推進会議で話し合いを行い、事業所としての方向性を明らかにした。事業所を始め、運営推進会議のメンバーや近隣の住民の方にもこの点についてじっくり考えていただくよい機会となった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については職員全員で取り組み、サービスの向上につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所の様子を伝えるとともに、認知症への理解を深めてもらう機会としている。また、外部評価の結果を受けて、事業所としての方針を決める際の相談にも関わっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会に来られた家族には話しやすい雰囲気心がけ、意見や苦情を直接伝えてもらうようにしている。介護計画書には家族の意見記入欄を設け、記入してもらっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的に散歩に出る機会を多くもち、地域の方々と顔なじみの関係になっている。自治会に加入し、行事へ参加したり、日頃のお付き合いを大切にしている。事業所便りを定期的に配ることにより、近隣の方の事業所についての理解も深まってきている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム ふうりん

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営者が施設を立ち上げる際に抱いた、利用者主体の生活の場を作ることを目標とする、という強い思いが反映された理念が掲げられている。	○	ホームとして一番大切に考えていることを、家族や地域の方々にもわかりやすいように、簡潔に表すことを検討してほしい。また、地域密着型サービスとして、地域の中で事業所がどんな役割ができるか、という点について盛り込んでいくとさらに良いと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員とも深く理念を理解しており、折に触れて理念について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、行事へ参加したり、日頃のお付き合いを大切にしている。近隣の住民とは顔見知りになり、声を掛け合う仲となっている。また、事業所便りを定期的に配ることにより、近隣の方の事業所についての理解も深まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員全員で取り組み、サービスの向上につなげている。外部評価の結果について職員間や運営推進会議で話し合いを行い、事業所としての方向性を明らかにするなど、評価を活かした取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一度運営推進会議を行っている。外部評価で指摘された点について報告し、検討してもらっている。行政の方にも参加していただき、さらに充実したものとしていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所からの要望や疑問点について、市の担当窓口に出向いて伝えるようにしている。市職員に事業所の様子やグループホームについて詳しく伝え、理解を深めてもらえるよう努力している。	○	今後も市の理解や支援を得るために、事業所から積極的に市の担当職員に働きかけを行っていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される機関紙では、利用者の暮らしぶりが丁寧に紹介されている。金銭についても毎月家族に報告がなされている。また、介護計画書に家族の意見記入欄を設け、確認をとり、コメントをもらうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問した際には、話しやすい雰囲気心がけながら、苦情や要望などを直接聞き取るようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑えるよう努力している。新しい職員は利用者になじんでもらえるよう、無理なくかわりを持つようにし、馴染みの関係をつくるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の情報は市町村から得て、利用者の生活に支障のないように配慮しながら全ての職員が研修を受けられるよう、計画を立てている。職員は内容を会議で発表し、記録として残し、日々のサービスの質の向上に活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会の研修等に参加し、他のグループホームの職員と交流を図るよう努力している。市内のグループホームが集まり、情報交換などの機会を持てるよう市に働きかけを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者にはサービス開始前に事業所を見学していただき、納得していただいてからサービスを開始するようにしている。必要な場合には職員が出向き、馴染みの関係を作るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に料理や囲碁、畑仕事などを教わり、ともに生活する人同士、支えあうという関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と語り合う時間を多く持ち、その時間を特に大切にしている。利用者が安心して思いを伝えられるよう言葉かけなどにも配慮し、待つことを大切にしたいかかわりを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の細かい介護記録をもとに職員全員で話し合い、計画の作成にあたっている。計画書には家族の意見記入欄を設け、家族の意向も計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、利用者全員について職員全員で計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて受診や外出など様々な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援を行っている。提携している医療機関とも協力体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス開始時に家族と話をするようにしている。、本人や家族の意向を尊重した上で、職員間で終末期に対する考え方を共有している。全員体勢で看取りも行った。その結果、医療機関の理解と協力も得られてきている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには十分注意を払っている。、利用者の誇りを傷つけないような言葉かけなど、会議の折、職員間で意識の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者とのかかわりや会話を大切に、個々のペースに合わせて生活できるよう支援している。買い物や散歩なども希望に沿って行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てたり、買い物をしたりする時は、利用者と一緒に決めている。準備、後片付けなどは一部の利用者で行っている。食事中職員は利用者のサポートのため、やむを得ず一緒にとっておらず、この点についてはホームとしての検討事項として捉えている。	○	全員で食卓を囲むことで、家庭的な雰囲気を利用者に味わってもらったり、同じものを食べることで食事内容について様子がよくわかったりするので、利用者・職員が共に食事をするということについてさらに検討を重ねていってほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴が基本となっているが、毎日の入浴が可能である。就寝前に入浴なども希望があればできる限り対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の畑仕事や裁縫など利用者が得意なことを楽しくやっていただけるよう支援している。初めて試みる温泉旅行など、利用者と職員が一丸となって楽しみごとを計画している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出は近隣への散歩、食材や日用品の買い物など、柔軟かつ積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ガレージの鍵は閉まっているが、日中は玄関に鍵をかけず自由に庭に出入りできるようになっている。平屋建ての建物なので中から外の様子が伺えるようになっており、利用者の見守りには十分気を配るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	様々な災害を想定して定期的に避難訓練を行い、反省をもとに実施記録を残している。壁には緊急時のマニュアルがわかりやすく表示されている。室内に数ヶ所消火器置き場があるが、消火器を移動してしまう利用者がいたため、一箇所にまとめて設置している。	○	事情により消火器置き場が使われていないが、事業所外の人が消火活動をする際に消火器のありがたがわかるよう、消火器置き場に張り紙をするなど工夫があるとよい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者と相談して決めているが、栄養士の職員がいるので栄養バランスについては配慮している。水分が採りにくい利用者にはゼリーなどで十分に確保できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンで日当たりもよく、家庭的な雰囲気漂っている。共用空間からは果樹園が見渡せ、季節を感じる事ができる。季節感を取り入れた壁面を利用者とともに作りあげている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床と畳が半々となった居室で、利用者の好みに合わせやすいものとなっている。利用者のなじみのものを持ち込んでもらい、居心地が良い空間が作れるよう配慮している。		